

旧磐田市民文化会館等跡地利活用 ワークショップ(年代別)実施報告



令和7年10月
磐田市 企画部 政策推進課

1. はじめに

1. はじめに

(1) 本実施報告の取り扱い

- ◎ 本実施報告は、これまでの経緯及び令和7年度の取組方針、令和7年9月に計2回実施した利活用ワークショップ【年代別】の参加者からいただいた意見・ニーズについて記載しています。
- ◎ ワークショップでいただいた意見・ニーズについては、大論点ごとに整理し、網羅的に記載しています。

(2) これまでの主な経緯

- ◎ 平成28年 市民文化会館の移転が決定
- ◎ 平成30年～ 利活用基本方針(案)策定、パブリックコメント実施
 - ⇒ **コロナ禍**
 - 生活様式や環境の変化
 - 民間事業者から活用・開発に関する声
- ◎ 令和2年3月 旧市民文化会館・文化振興センター閉館
- ◎ 令和4年7月 新市民文化会館「かたりあ」開館
- ◎ 令和5年4月 県立磐田農高グラウンド内を通る都市計画道路整備の可能性調査のため 静岡県教育委員会との協議・調整開始（跡地をグラウンドの代替地として提示）
- ◎ 令和6年3月 旧市民文化会館・文化振興センター解体工事完了
- ◎ 令和6年5月 静岡県教育委員会から「跡地をグラウンドの代替地として希望しない」との回答を受け、協議・調整終了
- ◎ 令和6年9月 **民間事業者との「共創」により利活用を検討**していくことを表明
- ◎ 令和6年12月～令和7年1月 民間事業者と「対話による利活用可能性調査(サウンディング型)」を実施
- ◎ 令和7年3月 「対話による利活用可能性調査(サウンディング型)」結果を公表

(3) 民間事業者との「共創」により利活用を検討するに至った背景

- ◎ 広大な土地を活かして、市民ニーズの高い機能を備えつつ、更なる**まちの賑わいづくり**につなげるには、民間事業者のアイデアやノウハウ、活力が必要であること。
- ◎ 中心市街地に位置するなど、**魅力的な立地条件**のため民間事業者の参入が見込めること。
- ◎ 将来に渡って活用し維持していくには、**建設費や維持管理費**などの面からも民間事業者との連携が必要であること。

(4) 民間事業者との「対話による利活用可能性調査(サウンディング型)」で
いただいた活用に対するアイデア・提案の概要(令和6年12月～令和7年1月実施)

◎ **にぎわい創出**に関わる要素

商業施設を核とした複合施設、道の駅、飲食ができる場所・店舗、子どもの遊び場施設など

◎ 市の強みである**スポーツ**に関わる要素

人工芝グラウンド、アーバンスポーツ施設、eスポーツ施設、フィットネス施設など

◎ **産業振興**に関わる要素

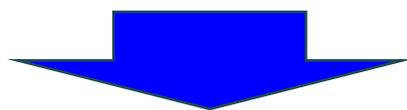
起業支援施設(コワーキングスペース等)、職業訓練施設、こどもの職業体験ができる場など

◎ **その他の要素**

防災機能を備えた活用、大雨時における雨水貯留対策、環境に配慮した敷地活用、
今之浦公園との一体的な活用など

(5) 令和7年度の取組方針

対話による利活用可能性調査で得られた結果をもとに、
市民の皆さまとの対話やワークショップを開催し、
幅広くご意見・ニーズを伺い、年度内に方針策定を目指します。



市民との対話・
対面ワークショップ

補完
×
拡充

オンライン
プラットフォーム

地域や年代を問わず、幅広い市民の参画を目指します

2. ワークショップ開催概要

2. ワークショップ開催概要

(1) 開催の目的

- ◎ 中心市街地に立地する**市の大切な財産**であるこの土地を、まちにとって、市民にとって、より**魅力ある“場所”**にしていきたいこと。
- ◎ そのために、**地域や年代を問わず幅広い市民の参画**により、多様な意見やニーズを伺う必要があると考えていること。
- ◎ いただきたい意見やニーズと、民間事業者からの提案・アイデア、市の計画・施策等、総合的に検討し、**利活用の基本的な方向性を示す**「(仮称)旧市民文化会館等跡地利活用基本方針」の策定につなげていくこと。

(2) 開催日時・対象・会場・参加人数

計2回開催し、延べ16名にご参加いただきました。

No.	日時	対象	会場	参加人数
①	9月9日(火)16:30~18:00	高校生・大学生	磐田市役所本庁舎第1会議室	9名
②	9月20日(土)9:30~11:00	子育て世代	磐田市役所本庁舎大会議室	7名

※①は、市内在住・在学の方、②は、市内在住・在勤の方を対象としました。

(3) 当日の流れ

時間(分)	項目	内容
0:00~0:15	開会・事務局説明	これまでの経緯、民間事業者との対話(サウンディング型)、R7取組方針について説明
0:15~0:25	ファシリテーター説明	ワークショップの進め方について説明、参加者同士で話し合いたいテーマを決定
0:25~0:55	ワークショップ①	OST(オープンソーステクノロジー)方式によるワークショップ
0:55~1:20	ワークショップ②	OST(オープンソーステクノロジー)方式によるワークショップ
1:20~1:30	振り返り会・閉会	出た意見のまとめ

※時間は目安です。

※ファシリテーターは、株式会社Liquitous 取締役 藤井海氏が担いました。

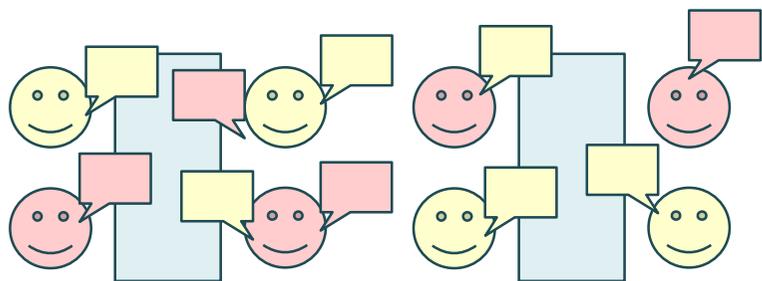
オンラインプラットフォーム「磐田のくらしラボ」の運営を依頼している企業であり、オフライン・オンライン双方のメリットを活かして、旧磐田市民文化会館等跡地利活用に係る意見聴取・集約の支援をいただいています。

(4) ワークショップの手法

OST(オープンスペーステクノロジー)方式という手法で実施しました。

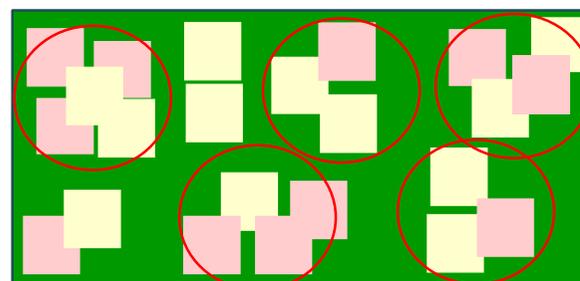
【STEP1】 テーマの募集

ワークショップで話したいテーマを付箋に書き出して、自由に提案していただけます。



【STEP2】 テーマの集約・グループ分け

提案いただいたテーマを集約・分類して、話し合いたいグループへ参加していただけます。



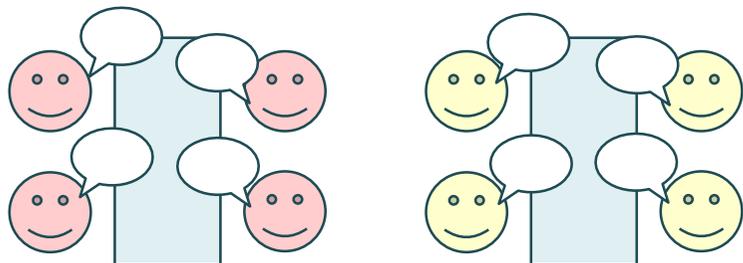
テーマ候補

- ① ○○○○
- ② △△△△
- ③ □□□□
- ④ ☆☆☆☆

【STEP3】 テーマに沿って対話

グループごとテーマに沿って自由に発言をしていただけます。途中でグループを変更することができます。

テーマを変えて2回実施しました



【STEP4】 全体で意見の共有

グループごとテーマに沿って出た意見を全体で共有・発表します。



3.ワークショップの詳細

3. ワークショップの詳細

(1) 高校生・大学生

【参加人数】 9名 (高校生:6名、大学生3名)

● 放課後の食事ニーズと地域の食文化活用

「塾や部活の合間に安くてお腹を満たせる店が少ない」という声が多く、気軽に飲食ができる場の要望があった。

また、サッカー観戦客など外部からの来訪者に向けて、磐田の名産品を楽しめる拠点づくりも必要との意見もあった。

● 多世代向けの学び・交流スペース

自習や静かな学びの場と、談笑できる交流の場を選べる施設の提案があった。小学生から社会人も利用できるように、世代や目的を超えて利用できる柔軟な空間設計が求められた。

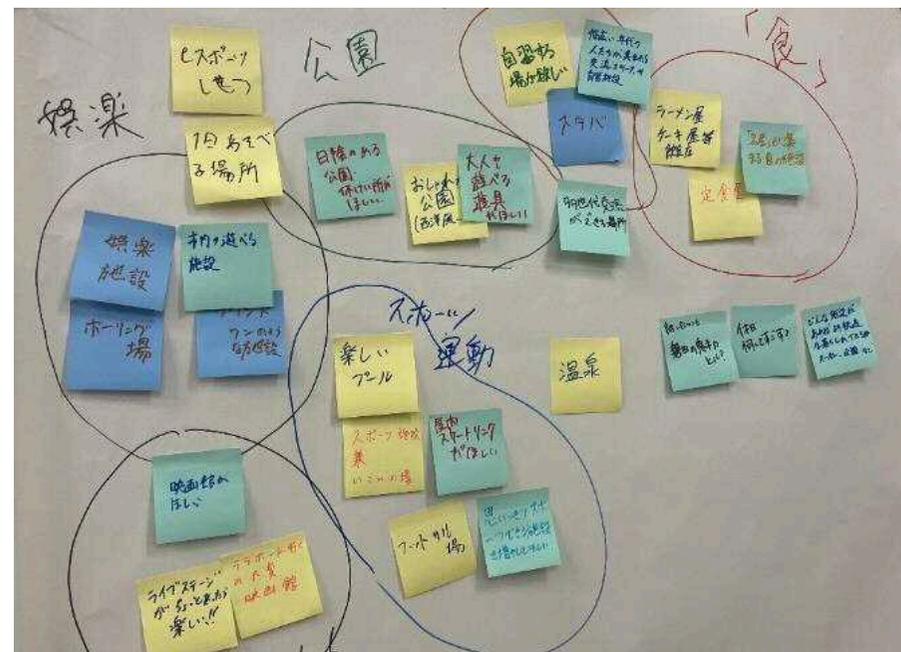
● 屋内娯楽・スポーツ体験施設

「ららぽーとが遠い」「雨の日に遊べる場所が少ない」との声から、地域内で買い物・遊びが完結できる場のニーズがあった。

特にトランポリン、アスレチックなど、多種のスポーツや体験ができる屋内施設が望まれ、親子連れや大学生など幅広い層に対応する施設が理想とされた。

● 若者向けデート・憩いスポット

若者が気軽にデートできる場が市内に少ないとの指摘があり、水族館やプラネタリウム、雰囲気の良い公園など、若者向けの「娯楽＝デート」ニーズを満たす環境整備が求められた。



(2) 子育て世代

【参加人数】 7名 (30代:7名)

●多世代が交流できる場所

多世代交流ができる場所が必要と提案され、シニア世代が子どもに昔の遊びを教えるイベントの開催など、地域全体をつなぐを深めるために、どの世代にとっても居場所となるスペースづくりが提案された。

●子どもの屋内の遊び場・居場所

雨や猛暑で屋外の公園が使えない日に、見守る大人がいて子どもが安全に遊べる屋内施設が必要との提案があった。

また、部活動が地域移行する中で、体を動かしたいものの、クラブチームに所属することまでは望んでいない中学生や高校生のための居場所の必要性が指摘された。

●誰もが気軽にスポーツを楽しめる場

磐田市はスポーツが盛んであるという強みを活かし、誰もが気軽にスポーツを楽しめる場所が提案された。予約不要で誰もが自由に使える卓球台が例として挙げられ、多世代の交流や、高齢者の運動の機会につながる効果も期待された。

●子どもと大人のための学びの機会

学校や家庭では教わる機会が少ない、現代社会に必要な教育(子ども向けの金融教育や性教育、デジタルリテラシーなど)の場が必要と提案があった。

また、子どもの教育のためにはまず大人が学ぶ必要があるとし、子どもが遊んでいる隣で大人が学べるような場の必要性も指摘された。



(3) ワークショップの様子 (写真を加工しています)



4.まとめ

4. まとめ

- ◎ 抽象・具体問わず、**多角的な視点で、各世代の生活スタイルに沿った多くの意見・ニーズ**をお伺いすることができました。
- ◎ 世代ごとに特有のニーズがあることが把握できた一方、世代が異なっても「子どもから大人まで」など「多世代交流」が共通するニーズとしてあることがわかりました。
- ◎ 本ワークショップにていただいた意見・ニーズと、7月に実施した地区別ワークショップでいただいた意見・ニーズ、オンラインプラットフォームでいただいた意見・ニーズを**集約・分析した上で、共通してニーズが高かった内容**について、今後、**庁内で協議し、さらに議論を深めるため、テーマ別ワークショップの開催へつなげていきます。**